

世 界 史 B

(解答番号 ~)

第 1 問 世界史上の宮廷や宮廷文化について述べた次の文章 A ~ C を読み、下の問い合わせ(問 1 ~ 9)に答えよ。(配点 25)

A ①カール大帝は、アーヘンやパリを拠点としながら、多くの臣下を引き連れて広く王国を巡幸していた。交通や通信の手段が整備されていなかった中世ヨーロッパでは、②遠方から税を送らせることが困難であり、自らの権威を示すためにも、君主自身が頻繁に諸地域を訪れる必要があったのである。また、カール大帝のアーヘン宮廷は学芸復興の中心となつたことで知られるが、時代が下るにつれて、諸侯の宮廷も文化の中心として、各地で栄華を誇るようになっていく。中世後期以降のイタリア諸都市では、貴族のみならず、傭兵隊長や大商人出身の君主なども豪壮な宮殿を構えて文芸・美術のパトロンとなつた。彼らの宮廷には多くの芸術家が招かれ③華麗なルネサンス文化が花開くことになった。

問 1 下線部①に関連して、世界史上の皇帝の事績について述べた文として正しいものを、次の①~④のうちから一つ選べ。

- ① ナポレオン 3 世は、大陸封鎖令を発布した。
- ② ヴィルヘルム 2 世は、社会主義者鎮圧法を制定した。
- ③ 則天武后は、国号を新と称した。
- ④ イヴァン 3 世は、ツァーリ(皇帝)の称号を用いた。

問2 下線部②に関連して、世界史上の税や税制について述べた文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 2

- ① 漢の武帝は、砂糖の専売を行った。
- ② ローマ=カトリック教会は、聖職者に対して十分の一税を課した。
- ③ 北米の13植民地は、本国による課税に反対して、「代表なくして課税なし」と主張した。
- ④ イギリス支配下のエジプトで、ライヤットワーリー制が導入された。

問3 下線部③に関連して、次の文章中の空欄アとイに入る語の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 3

ルネサンス最大の人文主義者とされるエラスムスは、アを著して、堕落した教会の権威を風刺した。彼の肖像画「エラスムス像」（下図参照）を描いたドイツの画家イは、彼の紹介でイギリスに渡り、後に宮廷画家となった。

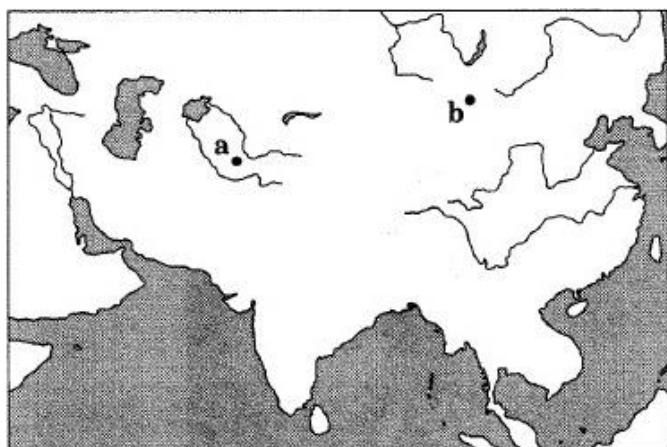


- ① ア—『愚神礼賛(愚神礼讃)』 イ—ホルバイン
- ② ア—『愚神礼賛(愚神礼讃)』 イ—ベラスケス
- ③ ア—『天路歴程』 イ—ホルバイン
- ④ ア—『天路歴程』 イ—ベラスケス

B 15世紀初めに東方に派遣されて④ティムールに面会したヨーロッパの使節は、彼が居を構えていた天幕のことを「遠くから見ると、この巨大な天幕は全く城かと見えるほど、それほどとほうもなく幅もあれば高さも高かった」と書き記している。ゲルやユルトと呼ばれる天幕を住居とする中央ユーラシアの⑤遊牧民の社会では、このように、君主や貴族たちも、天幕で移動生活を送った。大型で、豪奢に飾り立てられた君主の天幕群は、オルドと呼ばれる。オルドは、住居であるだけでなく、護衛・側近・使用人を含めた宮廷でもあり、政府中枢でもあった。⑥ムガル帝国の時代に西北インドで成立したとされるウルドゥー語も、その名称は、オルドに由来すると言われている。

問4 下線部④の人物が本拠とした都市の名と、その位置を示す次の地図中の**a**または**b**との組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

4



- ① サマルカンド—**a**
- ② サマルカンド—**b**
- ③ カラコルム—**a**
- ④ カラコルム—**b**

問5 下線部⑤について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

5

- ① 突厥は、劉邦を破って、漠を圧迫した。
- ② 鮮卑が、北魏を建てた。
- ③ 契丹(キタイ)は、キリル文字を作った。
- ④ イル=ハン国は、ガザン=ハンが建国した。

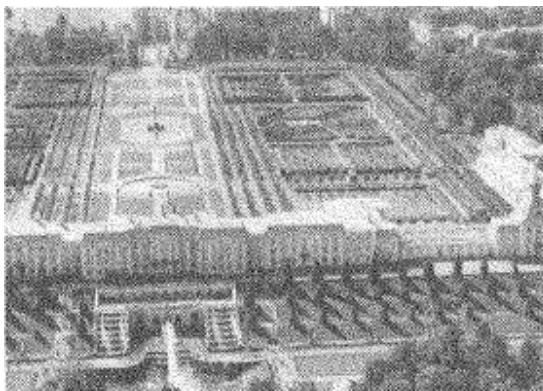
問6 下線部⑥に関連して、ムガル帝国の時代にインドで起こった出来事について

述べた文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

6

- ① ガズナ朝が、侵入を繰り返した。
- ② デカン地方で、サーダヴァーハナ朝が栄えた。
- ③ 『マヌ法典』が編纂された。
- ④ シク教徒が、反乱を起こした。

C 17世紀後半のフランス宮廷は、近世ヨーロッパ諸国の宮廷にとって、有力なモデルの一つであった。例えば、⑦ロシア君主ピョートル1世が建築した⑧離宮ペテルゴーフ(下図参照)にも、ヴェルサイユ宮殿のものと似た各種の噴水や、⑨古典主義に基づく彫像が配置され、フランス語起源の「オランジェリー」、「エルミタージュ」、「モン=プレジール」といった名称を持つ小宮殿などが造営された。このように、豪華に装飾された宮殿や庭園は、君主の権威を顯示する役割も果たしたのである。



ペテルゴーフの宮殿及び庭園(左)と宮殿前の噴水(右)

問7 下線部⑦の人物の事績について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 7

- ① ギリシア正教に改宗した。
- ② ラクスマンを日本に派遣した。
- ③ ステンカ=ラージンの反乱を鎮圧した。
- ④ 北方戦争で、スウェーデンに勝利した。

問8 下線部⑧に関連して、宮殿や都市について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 8

- ① 鎬京は、光武帝によって、都とされた。
- ② マチュ=ピチューは、インカ帝国の都市である。
- ③ ヴェルサイユ宮殿は、ロココ様式の代表的建築である。
- ④ バビロンの繁栄は、「世界の半分」と讃えられた。

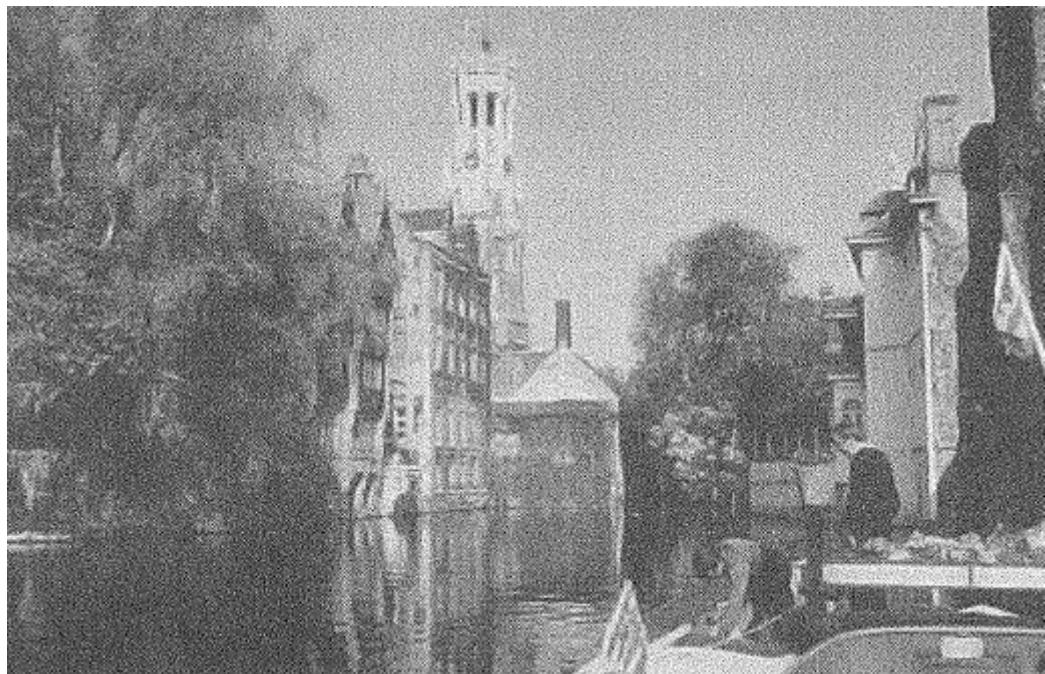
問9 下線部⑨に関連して、ヨーロッパの文化について述べた次の文 **a**～**c** が、年代の古いものから順に正しく配列されているものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 9

- a** ランケが、史料批判に基づく歴史学の基礎を作った。
- b** マキアヴェリが、『君主論』を著した。
- c** 喜劇作家として、モリエールが活躍した。

- ① **a** → **b** → **c**
- ② **a** → **c** → **b**
- ③ **b** → **a** → **c**
- ④ **b** → **c** → **a**
- ⑤ **c** → **a** → **b**
- ⑥ **c** → **b** → **a**

第2問 世界各地に残る文化遺産は、人類の歴史を後世に伝えている。それらのうち、ユネスコに登録された世界遺産について述べた次の文章A～Cを読み、以下の問い合わせ(問1～9)に答えよ。(配点 25)

A ベルギーの①世界遺産ブルッヘ(ブリュージュ)歴史地区は、運河と鐘楼が有名であり(下図参照)、地区内には、かつて②市民の職業団体であるギルドによって集会所として用いられた建物が、今も残る。11世紀頃から、ヨーロッパ経済が活性化すると、ブルッヘは、毛織物業と国際商業の中心都市として栄えた。しかし、中世後期以降、都市と港とを結ぶ運河に土砂が堆積して、船の航行を妨げるようになった。やがて③ヨーロッパ経済が世界的に拡大していくなかで、ブルッヘは時代の流れから取り残されていくが、今日では、中世の面影を現在に伝える都市として、ベルギーの主要な観光地となっている。



中世の面影を色濃く残すブルッヘの運河と鐘楼

問1 下線部①について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

10

- ① 始皇帝の陵墓近くから、兵馬俑が出土した。
- ② ポロブドゥールは、ヒンドゥー教の寺院として造られた。
- ③ アルハンブラ宮殿は、ビザンツ様式の代表的建築である。
- ④ 北京の紫禁城は、宋の皇帝の宮殿であった。

問2 下線部②に関連して、歴史上の職業団体やその集会所について述べた文とし

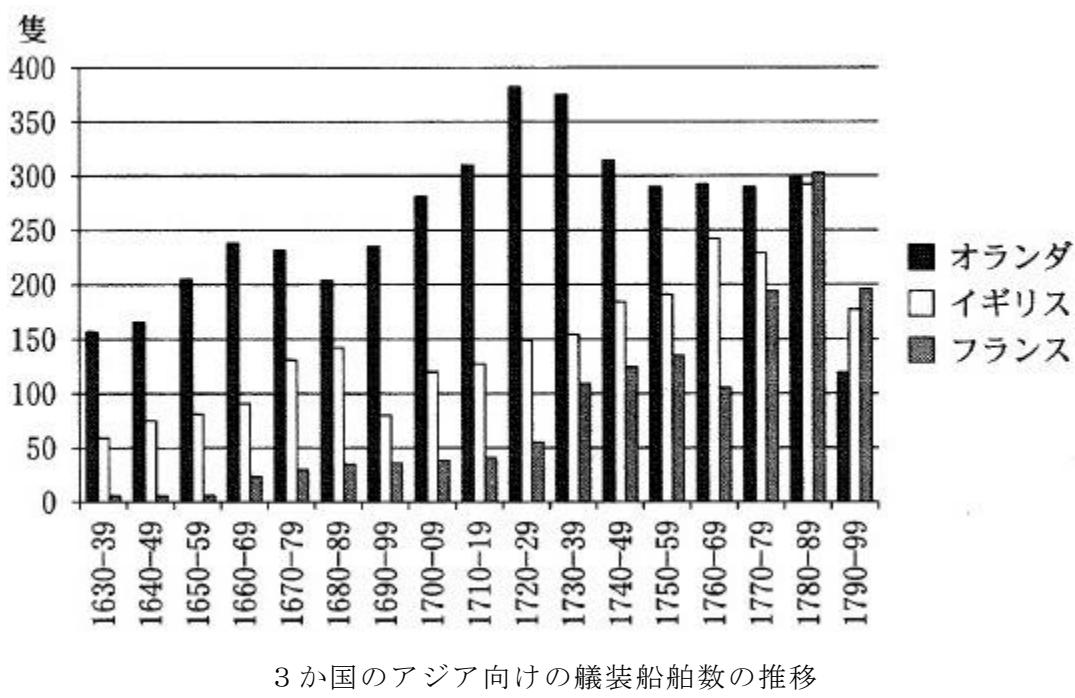
て誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

11

- ① フランス革命において、ギルドが廃止された。
- ② 同職ギルドには、親方のほか、徒弟や職人も加入した。
- ③ 公行は、特許商人の組合である。
- ④ 会館・公所では、商工業者が、同郷出身者や同業者同士の互助を図った。

問3 下線部③に関連して、次のグラフは1630年から1799年にかけて、オランダ・イギリス・フランスの3か国において、アジアに航海するために艦装(航海に必要な装備を施すこと)された船舶の数を表したものである。このグラフから読み取れる内容について述べた下の文**a**と**b**の正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

12



(羽田正『東インド会社とアジアの海』より作成)

- a** オランダの船舶数がピークを迎えたのは、七年戦争終結後である。
- b** フランスの東インド会社が再建される以前、同国の船舶数は、常にイギリスの半分以下である。

- ① **a**—正 **b**—正
- ② **a**—正 **b**—誤
- ③ **a**—誤 **b**—正
- ④ **a**—誤 **b**—誤

B 世界遺産に登録されているイギリスのロンドン塔は、テムズ川北岸に築かれた、中世以来の城塞である。ロンドン塔の中心にあるホワイトタワーと呼ばれる建物は、11世紀後半に、当時の④国王の命を受けて建造され始めた。その後、ロンドン塔は、数多くの国王によって手が加えられ、1900年頃までに、ほぼ今日の姿となった。ロンドン塔は、軍事施設として用いられ、⑤第一次世界大戦の際には、軍隊の編成や訓練の場となった。その他に、王宮、公文書保管所、貨幣鑄造所、そして⑥牢獄として利用された歴史を持つ。

問4 下線部④に関連して、次の年表に示した **a**～**d** の時期のうち、イギリスで立憲王政が確立した時期として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

13

a

1689年 ウィリアム3世とメアリ2世即位

b

1837年 ヴィクトリア女王即位

c

1952年 エリザベス2世即位

d

① **a**

② **b**

③ **c**

④ **d**

問5 下線部⑤に関連して、第一次世界大戦後に起こった出来事について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 14

- ① フーヴァー=モラトリアムが宣言された。
- ② イギリスで、第3回選挙法改正が行われた。
- ③ スイスの独立が認められた。
- ④ ブーランジェ事件が起こった。

問6 下線部⑥に関連して、牢獄や投獄について述べた次の文 **a** と **b** の正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 15

- a** イギリスでは、審査法によって、不当な逮捕や投獄が禁止された。
- b** フランスでは、ヴァレンヌ逃亡事件をきっかけに、バステイユ牢獄(バステイユ要塞)への襲撃が起こった。

- ① **a**—正 **b**—正
- ② **a**—正 **b**—誤
- ③ **a**—誤 **b**—正
- ④ **a**—誤 **b**—誤

C 孔子の故郷、山東省曲阜市には世界遺産の孔廟がある。孔子の祭祀施設である孔廟は、⑦儒教の盛行に伴って曲阜以外の諸都市にも設けられ、さらには東アジアや東南アジアの各地へと広まっていく。日本でも、栃木県の足利学校や東京都の湯島聖堂など、孔子を祭り儒学を教える場が数多く造られたのである。曲阜の孔廟は、プロレタリア文化大革命の際、⑧儒教が批判されるなかで、紅衛兵によって一部が破壊された。しかし、⑨改革・開放の時代に入ると再び評価が高まり、世界遺産に登録されるに至った。



曲阜孔廟の大成殿

問7 下線部⑦について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 16

- ① 唐代に、『五經正義』が編纂された。
- ② 明代に、六諭が定められた。
- ③ 朝鮮(李朝、朝鮮王朝)は、朱子学を重んじた。
- ④ 黎朝は、漢から儒教を導入した。

問8 下線部⑧に関連して、戦争や外来文化の影響を受けた文化遺産について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 17

- ① アロー戦争の際、円明園が破壊・略奪された。
- ② 明は、柔然との戦いに備えて、長城を改修した。
- ③ 竜門では、ジャイナ教の石窟寺院が造営された。
- ④ ガンダーラでは、イスラーム文化の影響を受けた仏像が作られた。

問9 下線部⑨に関連して、次の年表に示した **a**～**d** の時期のうち、改革・開放政策の下で人民公社の解体が始まった時期として正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 18

a
1953年 第1次五か年計画が始まる
b
1976年 周恩来が死去
c
1992年 「南巡講話」が行われる
d

- ① **a**
- ② **b**
- ③ **c**
- ④ **d**

第3問 世界史上の戦争とその影響について述べた次の文章A～Cを読み、下の問い合わせ(問1～9)に答えよ。(配点 25)

A ローマは、共和政期に①バルカン半島南部を征服していたが、半島全体に支配を拡大する動きは、帝政期になって本格化した。初代皇帝のときに、この地の諸部族に対して積極的に戦争を仕掛け、ドナウ川上流から黒海に至るまでの地域を広く②征服地としたのである。その結果、ドナウ川流域にはローマ軍が集中的に配備され、先住諸部族との抗争の舞台となった。しかし、3世紀半ばには国境外の諸勢力が強力となり、ローマの支配地は徐々に後退していった。以降、この地には、ローマやその後継国家の影響力が弱まるなか、③様々な人々が移動・定住し、多くの国家が興亡を繰り返していく。

問1 下線部①の地域について述べた次の文aとbの正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 19

- a テミストクレスが、サラミスの海戦で、アケメネス朝を破った。
b フィリッポス2世が、カイロネイアの戦いで、スパルタを破った。

- ① a—正 b—正
② a—正 b—誤
③ a—誤 b—正
④ a—誤 b—誤

問2 下線部②に関連して、世界史上の国家が、征服地に対して行った政策について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

20

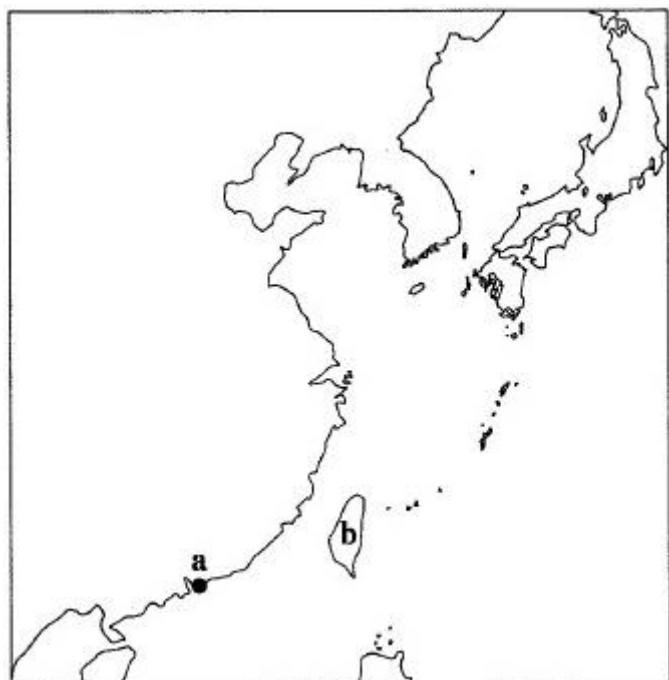
- ① 唐は、征服地に都護府を置いた。
- ② 共和政ローマは、シチリアを属州とした。
- ③ ビザンツ帝国は、征服地に軍営都市(ミスル)を設けた。
- ④ 清は、モンゴルを藩部とした。

問3 下線部③について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 21

- ① マジャール人が、ハンガリー王国を建てた。
- ② モンゴル軍が、ウィーンを包囲した。
- ③ フン人が、ブルガリア王国を建てた。
- ④ オスマン帝国が、ニコポリスの戦いで敗れた。

B 19世紀中頃以降、東アジア地域では戦争が頻発するようになった。それらは④当初、欧米列強と東アジア各国との間に戦われたが、やがて東アジアの国同士の戦争や内戦も発生した。第二次世界大戦後、中国では⑤中国国民党と中国共産党との対立が再び表面化して、内戦が勃発した。また朝鮮半島では、中国の内戦の結果も影響し、北緯38度線を挟んだ対立状況が戦争に発展した。連合国に占領下にあった日本は、これらの戦争から大きな影響を受けながらも、⑥国際社会への復帰を目指した。

問4 下線部④に関連して、19世紀にイギリスが清から割譲させた領土の名と、その位置を示す次の地図中のaまたはbとの組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 22



- ① 香港島—a
- ② 香港島—b
- ③ 台湾—a
- ④ 台湾—b

問5 下線部⑤に関連して、国民政府の外交政策について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 23

- ① 二十一か条要求を受諾した。
- ② 関税自主権の回復を目指した。
- ③ 北京議定書に調印した。
- ④ 中ソ友好同盟相互援助条約を締結した。

問6 下線部⑥に関連して、第二次世界大戦後に形成された国際社会の新たな枠組みについて述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

24

- ① オーストラリアが、太平洋安全保障条約(ANZUS)に参加した。
- ② コミニテルンが結成された。
- ③ 四か国条約が締結された。
- ④ パクス=ブリタニカ(パックス=ブリタニカ)と呼ばれる状況が実現した。

C ロベルト=ユンクは、⑦第一次世界大戦の直前にドイツで生まれ、20代でスイスに亡命し、その後にアメリカ合衆国やオーストリアで活躍したジャーナリストである。ユンクは、戦争と結び付きうる⑧科学の理論や技術について著し、科学の急速な発展によって人間性が失われていく状況を問題視した。彼はたびたび来日し、広島で被爆した少女サダコ(佐々木禎子)の物語を世界に伝えることに貢献するなど、反核・反戦運動を通じて、⑨近代科学と密接に関わる20世紀の戦争に警鐘を鳴らし続けた。



1960年に広島を訪問したユンク

問7 下線部⑦に関連して、第一次世界大戦中の秘密外交について述べた次の文章中の空欄[ア]と[イ]に入れる語の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[25]

イギリスは、[ア]によってアラブ人に独立を約束したが、ほぼ同じ時期に、それと矛盾する他の秘密協定を連合国などと結んだ。このような秘密外交は、アメリカ大統領ウィルソンの[イ]で廃止が訴えられた。

- ① アーフサイン=マクマホン協定(フセイン=マクマホン協定)
イー十四カ条の平和原則
- ② アーフサイン=マクマホン協定(フセイン=マクマホン協定)
イー平和十原則
- ③ アーサイクス=ピコ協定
イー十四カ条の平和原則
- ④ アーサイクス=ピコ協定
イー平和十原則

問8 下線部⑧について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[26]

- ① フォードが、飛行機を発明し、初飛行に成功した。
- ② ファラデーが、ダイナマイトを発明した。
- ③ アインシュタインが、相対性理論を発表した。
- ④ ヘルムホルツが、ガソリンエンジン(内燃機関)を発明した。

問9 下線部⑨に関連して、空爆が重要な戦略として用いられた戦争について述べた次の文 **a**～**c** が、年代の古いものから順に正しく配列されているものを、以下の①～⑥のうちから一つ選べ。 27

- a** 北大西洋条約機構(N A T O)軍が、セルビアを爆撃した。
- b** ドイツが、ゲルニカを爆撃した。
- c** イスラエルが、シナイ半島を占領した。

- ① **a** → **b** → **c**
- ② **a** → **c** → **b**
- ③ **b** → **a** → **c**
- ④ **b** → **c** → **a**
- ⑤ **c** → **a** → **b**
- ⑥ **c** → **b** → **a**

第4問 世界史上の宗教と政治との関係について述べた次の文章A～Cを読み、

下の問い合わせ(問1～9)に答えよ。(配点 25)

A 古典的なイスラームの教義によれば、信徒は単一の共同体を構成し、①ただ一人のカリフによって統治される。しかし、イスラーム世界は、7世紀以来常に②宗派対立を抱え、特に10世紀以降は政治的にも分裂状態に陥っていく。また、信徒の共同体は、その連帶的な義務として、③イスラーム法による支配を実現しなければならないとされる。しかし、17世紀以降、ヨーロッパ諸国が軍事的優位を獲得するにつれ、この義務の遂行は困難になった。

問1 下線部①に関連して、イスラーム世界の君主について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 28

- ① アッバース朝のカリフを、正統カリフと呼ぶ。
- ② シャーは、もともと古代エジプトの君主の称号であった。
- ③ スルタンという称号は、マムルーク朝によって初めて用いられた。
- ④ ファーティマ朝の君主は、カリフを称した。

問2 下線部②に関連して、新宗教や新宗派について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 29

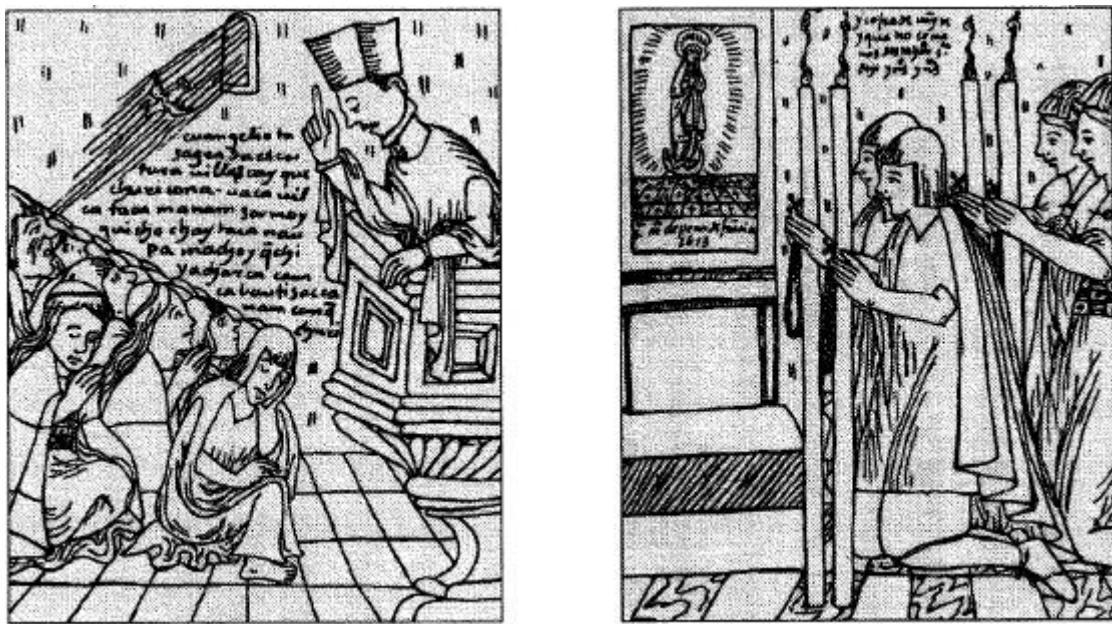
- ① アメンホテプ4世は、独自の一神教を創始した。
- ② バーブ教は、イル=ハン国によって弾圧された。
- ③ ツヴィングリは、プラハで宗教改革に着手した。
- ④ 白蓮教は、明代末期に消滅した。

問3 下線部③に関連して、イスラーム法の担い手や、イスラーム世界における政治運動について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

30

- ① 法学などイスラーム諸学を修めた知識人は、ウンマと呼ばれる。
- ② イブン=サウードは、サウジアラビア王国を建てた。
- ③ ターリバーン(タリバーン)は、チュニジアの政権を掌握した。
- ④ イラン=イスラーム革命(イラン革命)により、カージャール朝が倒れた。

B スペイン人による④アメリカ大陸の征服と植民は、先住民の文化や宗教に大きな影響を与えた。メキシコでは、先住民擁護の立場に立つスペイン人宣教師のモトリニアやサアグンが、先住民の言語を習得して、⑤キリスト教を布教した。ペルーにおいては、キリスト教徒となった先住民のポマ=デ=アヤラが、スペイン語を習得し、被征服者の視点から⑥歴代の王やインディオの生活についての年代記を著した。彼は数多くの挿絵を用いて、スペイン人宣教師や先住民を描写した(下図参照)。



ポマ=デ=アヤラによる挿絵

先住民の言語で説教する宣教師(左)とキリスト教に改宗した先住民(右)

問4 下線部④に関連して、ヨーロッパ諸国の海外植民地について述べた次の文**a**と**b**の正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

31

a ケベック植民地が、スペインによって建設された。

b ニュージーランドが、イギリスの植民地となった。

① **a**—正 **b**—正

② **a**—正 **b**—誤

③ **a**—誤 **b**—正

④ **a**—誤 **b**—誤

問5 下線部⑤について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 32

① ネロ帝は、キリスト教徒を保護した。

② マニ教は、キリスト教の誕生に影響を与えた。

③ 『新約聖書』は、最初はアラビア語で記された。

④ カタコンベは、キリスト教徒によって礼拝に用いられた。

問6 下線部⑥に関連して、アメリカ大陸の文明について述べた次の文中の空欄
アとイに入れる語の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 33

中央アメリカのユカタン半島を中心に栄えたアでは、精密な暦法、絵文字、イに基づく数学など、独自の文化や宗教が発達した。

① ア—アステカ文明 イ—二十進法

② ア—アステカ文明 イ—六十進法

③ ア—マヤ文明 イ—二十進法

④ ア—マヤ文明 イ—六十進法

C 19世紀後半にタイの近代化の礎を築いた名君として知られる国王モンクット(ラーマ4世)は、即位以前の27年間を、⑦仏教の僧院で僧侶として過ごした。王は、パーリ語經典の研究と、同時期に⑧アジアで活動していたキリスト教の宣教師との交流を通じて、仏教が合理的で実践的な教えであるという信念を持つに至った。王が手掛けた教義の整理と、それを伝えていく教育の整備とは、王の死後、次代の国王や指導者たちによって引き継がれ、仏教はタイの⑨ナショナリズムを支える大きな柱となった。

問7 下線部⑦について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 34

- ① アユタヤ朝では、上座部仏教が信仰された。
- ② 玄奘が、モンゴルから仏典を持ち帰った。
- ③ シュリーヴィジャヤで、仏教が栄えた。
- ④ 高麗で、大蔵經が刊行された。

問8 下線部⑧に関連して、宗教をめぐる対立について述べた次の文章中の空欄
アとイに入れる詩の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 35

ヨーロッパ列強の進出が盛んになった19世紀後半の中国では、アと呼ばれる反キリスト教運動が起こった。「扶清滅洋」を唱えるイによる排外運動も、その流れをくんでいた。

- | | |
|-----------|-------------|
| ① アー仇教運動 | イー義和団 |
| ② アー仇教運動 | イー上帝会(挾上帝会) |
| ③ アー新文化運動 | イー義和団 |
| ④ アー新文化運動 | イー上帝会(挾上帝会) |

問9 下線部⑨に関連して、アジアのナショナリズムについて述べた次の文 **a** と **b** の正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 36

a フィリピンで、タキン党が、イギリス支配に対する独立運動を主導した。

b インドの国民會議派は、スワデーシ（国産品愛用）などの方針を掲げた。

- ① **a**—正 **b**—正
- ② **a**—正 **b**—誤
- ③ **a**—誤 **b**—正
- ④ **a**—誤 **b**—誤

【解説】

第1問 世界史上の宮廷や宮廷文化

A

リード文にあるように、中世ヨーロッパでは君主が国内を巡幸することも多かつた。P. 135 の地図[D]にはフランク王国のアーヘンが首都として示されているが、近代的な意味での首都ではない。しかし、アーヘンの宮廷における学芸復興はカロリング=ルネサンスと称され、P. 135 の写真⑧の解説からわかるようにイングランドから学者が招かれるなど、アーヘンが当時の西ヨーロッパ世界の中心地であったことは間違いない。

イタリア=ルネサンスの華やかな展開の陰にもパトロン(保護者)がいる。例えば、レオナルド=ダ=ヴィンチはローマ教皇やフランソワ1世の保護を受けた(P. 188 の年表とP. 190 の人物コラムを参照)。また、フィレンツェで活躍した芸術家はメディチ家との関わりが深かった(P. 189 の用語解説などを参照)。

問1 正解④ (世界史上の皇帝の事績) 1

①大陸封鎖についてはP. 220 の[3]を参照。ヨーロッパ制覇を狙うナポレオンがイギリスの弱体化を目的に出したものだが、かえって大陸諸国の反発も招いた。[1]の年表で、大陸封鎖令の前にナポレオンがイギリスとの海戦に敗れていること、封鎖後、ナポレオンに対する反乱やロシアの離反が起こること、を確認したい。

②ビスマルクは対外的にはフランスを孤立させ、国内では諸勢力のバランスをとつてドイツ帝国の実権を握った。P. 229 の[3]で社会主義者鎮圧法と社会保険制度の「アメとムチ」によって、労働者の協力を得ている点に注目したい。しかし、1890年にヴィルヘルム2世が皇帝に即位するとビスマルクは宰相を辞任し、皇帝自らが社会主義者鎮圧法の廃止など、帝国主義的な対外進出策をとるようになる(P. 256 参照)。ドイツの路線転換は、ロシアとフランスを接近させ、1891年には露仏同盟が成立し(P. 260 の[1]を参照)、ドイツを挟撃する形となった。

③新を称したのは漢の外戚王莽(P. 110 の年表を参照)。則天武后が称した国号は周(P. 116 の年表を参照)。

④P. 141 の[5]を参照。ウラディミル1世の改宗以来、正教国家としてビザンツ帝国との関係を持ったロシアでは、モスクワ大公イヴァン3世がツァーリを自称、イ

ヴァン4世が正式にツアーリ称号を使用した。これは、ギリシア正教会の擁護者を宣言したことに等しい(P. 141の写真⑤の解説を参照)。

問2 正解③ (世界史上の税や税制) 2

①P. 110の年表を参照。前漢武帝の治世については、国内政策と対外関係に分けて整理したい。塩・鉄の専売は中国の社会経済史を見るうえで非常に重要である。巻末で中国の諸制度の変遷が確認できるので、貨幣の発行や流通制度の整備とともに確認してほしい。

②まずP. 138で、ローマ教皇を頂点とする教会ヒエラルキアを見てほしい。このような上下関係で編成された聖職者は、封建制・荘園制のシステムの中では領主であり、支配下の農奴から貢納を得ていた(P. 137の③・④)。

③P. 216の年表を見て、イギリス本国の統制強化と、それに伴い植民地側の不満が高まる経過を整理しよう。「代表なくして課税なし」のスローガンは、印紙法の制定を直接のきっかけとして生まれたものである。

④イギリスのインドからの地税収奪については、P. 245に詳しい。ザミンダーリー制とライヤットワーリー制の間には土地所有権者の相違がある。いずれにせよ、このような地税収奪と伝統的綿織物生産の破壊は、インド農村社会を疲弊させた。エジプトもイギリスの支配下で対外的従属度を深めた。その様子はP. 243で確認したい。

問3 正解① (エラスムスとホルバイン) 3

P. 188の①を見るとイタリア=ルネサンスの限界として、教皇との結びつき、社会批判意識の欠如が挙がっている。しかし、エラスムスの『愚神礼賛(讃)』のように教会の腐敗を風刺する者もいて(P. 192の②)，後の宗教改革に影響を与えた。また同時に、ラテン語から離れて各国語を用いた近代文学も生まれ、シェークスピア(P. 192の人物コラムを参照)などが活躍した。

B

ティムールはモンゴル貴族の家柄であり、トルキスタンからイランを支配してモンゴル帝国の再興をめざした。P. 40 と P. 42 の全体地図でその領域を見ておきたい。ティムール帝国の年表は P. 176 にあるが、オスマン帝国を窮地に追い込んだこと、明への遠征を狙っていたこともおさえておきたい。この当時の明の皇帝は永楽帝であり (P. 166 参照)，鄭和の南海遠征とティムールの遠征が時期として重なる。

ティムールはインドにも侵入していたが、その末裔のバーブルがムガル帝国を建てる (P. 180)。ムガル帝国で発展したインド=イスラーム文化はヒンドゥー文化とイスラーム文化の融合体であり (P. 181 の 4), ウルドゥー語もその例と言えるだろう。

問 4 正解① (ティムールの本拠地) 4

P. 39 でカラコルムを、P. 43 でサマルカンドを確認しよう。

問 5 正解② (遊牧民の歴史) 5

①突厥はシルクロードを支配下に置いた遊牧国家で、P. 23 で既にその影響がわかる。唐は婚姻関係などをを利用して突厥を服属させ (P. 121 の地図と P. 111 の用語解説)，都護府を通して間接支配する羈縻政策を実施した。羈縻政策については P. 117 の 4, 都護府の設置場所については P. 27 を参照。前漢を圧迫した遊牧民族は匈奴であり、武帝の対外政策の重点もその討伐に置かれた。P. 13 の全体地図や P. 111 の 4 で確認したい。劉邦と同時代に匈奴を率いたのが冒頓单于である。P. 111 の 3 を一読してほしい。

②鮮卑は既に P. 17 の全体地図に見える。これが華北に北魏を建てた (P. 23)。

③中国周辺民族の文字については P. 157 の 5 にまとめられている。あわせてその系統図を見ると、中国周辺の文字にはアラム文字の影響 (これは商業活動のひろがりと関係している) と漢字の影響があり、契丹文字は両系統を受け継いでいる。キリル文字は、スラヴ人地域へのキリスト教宣教活動の中でつくられた文字であり、現在のロシア文字にもつながる。P. 140 の用語解説を参照。

④P. 126 の 1 で、イスラーム世界の展開の概略をつかみ、13 世紀がモンゴル人のイスラーム化の時代であり、イル=ハン国によってアッバース朝が滅ぼされたことを理解しておきたい。バグダードを陥落させたのはフラグである (P. 127)。第 7 代ガザン=ハンについても同ページに載っている。ガザン=ハンはイスラームに改宗して聖職者を取りこみ、モンゴル人の軍事力をも合わせて統治を安定させた。

問6 正解④ (ムガル帝国時代の出来事) 6

P. 180 の年表を見ながら整理してみよう。

- ①ガズナ朝・ゴール朝のインド侵入はデリー=スルタン朝より前。
- ②ムガル帝国時代のインド南部の大国はヴィジャヤナガル王国。サーダヴァーハナ朝はクシャーナ朝と同時代で P. 98 に掲載。
- ③『マヌ法典』はグプタ朝時代に完成した (P. 98)。
- ④P. 181 で、非ムスリムに融和的なアクバルと、その正反対のアウラングゼーブを対比しよう。アウラングゼーブの強圧的な施政は、ラージプート諸王国の離反やシク教徒の反乱を招いた。

C

P. 201 にヴェルサイユ宮殿が載っているので、ペテルゴーフと比べてみよう。

問7 正解④ (ピョートル1世の事績) 7

①ロシアのギリシア正教化と言えば、キエフ公国の中ラディミル1世の改宗を指す。

P. 141 の5を参照。

②P. 204 の1を参照して、ロシアの領土拡大と主な皇帝の治世を整理したい。ピョートル1世の時代に領土は太平洋に達しており、ラクスマンを日本に派遣したのがエカチェリーナ2世である。エカチェリーナ2世は、大黒屋光太夫が謁見したことでも知られている(P. 48 の人物コラム)。

③これも P. 204 を参照。農奴制が残存するロシアでは、コサックと呼ばれる逃亡農民を含む反乱が何度か起こった。ステンカ=ラージンの乱とプガチョフの乱はおさえておきたい。

④北方戦争で勝利したピョートル1世は、サンクト=ペテルブルクの建設にのりだした。ロシアの西欧化・近代化にも関わった治世について、P. 204 の2や人物コラムを参照。

問8 正解② (宮殿や都市の歴史) 8

①鎬京は西周の都である。P. 106 の年表と地図を参照。光武帝は洛陽を都として漢を再興した(P. 110 の年表)。前漢の長安との位置関係は P. 111 の地図で確認したい。両者とも黄河・渭水の流域であるが、長安が政治的・軍事的な要衝、洛陽は経済的な要衝と考えられる。

②100 年ほど前に「発見」されたマチュ=ピチュ(インカ帝国の都市)遺跡の写真は P. 184 に掲載。P. 185 のマヤ文明のピラミッドなどとともに、石造技術の高さを確認したい。

③豪壮なバロック美術と繊細で優美なロココ美術の違いは、P. 208・209 を眺めて知っておきたい。絵画を比較すると違いがわかるだろう。バロックの代表にヴェルサイユ宮殿、ロココの代表にサンスーシ宮殿がある。P. 208 の1を参照。

④繁栄ぶりを「世界の半分」と絶賛されたのは、サファヴィー朝のイスファハーンである。P. 176 の1で、オスマン帝国と争ったアッバース1世の治世とともに確認しておこう。現在も、イマーム=モスク(世界遺産)をはじめ多くのイスラーム建築が、その栄華を伝えている。バビロンは古代メソポタミアの都市であり、そ

のジッグラトは旧約聖書の「バベルの塔」のモデルとなった(P. 74 のコラム参照)。

問9 正解④ (ヨーロッパの文化) 9

- a ランケは史料批判に基づく近代的歴史学の基礎をつくった。P. 240 の2を参照。
同時代にドイツ哲学や古典派経済学も発展していく。
- b ルネサンス期のイタリアは統一されていなかった(P. 188 の1)。他国との争いで
戦場となったイタリア(イタリア戦争)を憂い『君主論』を著したのがマキアヴェ
リである。P. 162 の写真を参照。
- c モリエールは、フランスの絶対王政のもとで古典主義文学(劇文学)を発展させ
た作家である。P. 209 の2を参照。同時期のイギリスでは、政治的な題材のピュ
ーリタン文学や社会を風刺した風刺文学が発展していた。

第2問 ユネスコに登録された世界遺産

A

中世ヨーロッパの商業の発展については、P. 144 に概観がある。北海・バルト海商業圏ではフランドルの毛織物が重要な商品であった。文中に出てくるブリュージュが、ハンザ同盟の4大在外商館所在地であったことも地図で確認できる。このような商業活動を支えたのが、都市の「自由」とギルド組織であった。これも同ページの③・④で確認できる。

問1 正解① (各地の世界遺産) 10

- ①始皇帝の統一政策については P. 109 の②で整理したい。統一貨幣・郡県制・思想統制など、後の歴代王朝に通じていくものも多い。始皇帝の権力の大きさを示す帝陵と兵馬俑坑については、P. 109 のコラムを参照。
- ②アンコール=ワットとボロブドゥールは、東南アジア史を知るうえで重要な遺跡(寺院)。P. 101 にテーマでまとめられている。アンコール=ワットがヒンドゥー教寺院として建てられたのに対し、ボロブドゥールは大乗仏教寺院として創建されたことも、解説文にある。東南アジアの多様性は受験生を悩ませるが、P. 102 の②などを利用して、時代ごとの特徴を見ておこう。例えば、アンコール=ワットが 13 世紀以降のアンコール朝の衰退に伴って、仏教寺院に転じたことも理解できる。
- ③アルハン布拉宮殿は P. 129 に掲載。イベリア半島におけるイスラーム支配を象徴するみごとなアラベスク模様が、今も観光客を魅了している。ビザンツ様式の傑作でありながら、後にモスクに改修された有名な建築物はハギア=ソフィアである。P. 139 参照。
- ④宋の都は開封・臨安で、商業都市としての発展にも注目したい。その背景には運河を利用した流通網の整備があり (P. 154 の地図A)，繁栄の様子を示す史料として「清明上河図」(P. 154 の①)を見ておこう。紫禁城は明の永楽帝が創建し、明清代を通して中華帝国の絶頂期を象徴する存在であった。P. 171 のコラムを参照。

問2 正解② (歴史上の職業団体やその集会所) 11

- ①ギルドの廃止は、フランス革命の比較的早い段階で実現する。P. 218 の①を参照。国民議会の時期(1791 年)の出来事である。

②ギルドの組織形態はP. 144の右下に掲載。商業活動を支える一方、上下関係は厳しく、親方層だけが正式なメンバーで「市民」とみなされるなど、封建的色彩も強かった。

③P. 170の[1]にあるように、康熙帝が公行を創立し、乾隆帝がヨーロッパとの貿易を広州に限定した。つまり、朝貢貿易の枠を維持するため、特許商人に委ねたのである。P. 248の[2]で、イギリスが広州の公行を通じた貿易体制に不満を募らせ、アヘン戦争に至る過程を確認したい。

④明清代の農村経済の発展と、徽州商人・山西商人による流通の発達については、P. 172の[1]を確認しよう。会館・公所のような互助組織が設立された理由もわかる。

問3 正解③ (東インド会社) [12]

ヨーロッパ諸国のアジア進出については、P. 210の[1]を参照。17世紀にオランダがインドネシア方面に進出していく一方、18世紀にはイギリスとフランスのインド進出争いが激化していく。第2次英仏百年戦争は七年戦争(インドではプラッシーの戦いと連動)を経て終結し、18世紀半ばにはイギリスの覇権が確立する。

- a 七年戦争は18世紀半ばであるから、この文は誤り。
- b P. 210の[1]でわかるように、英仏蘭の東インド会社は17世紀初頭、ほぼ同時に設立される。フランスのものが再興されるのは1664年であり、対外侵略戦争を重ねたルイ14世の時代(P. 201参照)。会社再興の背景には、戦争やヴェルサイユ宮殿造営に伴う国家財政の悪化もあった。

B

問4 正解② (イギリスにおける立憲王政の確立) 13

国王の恣意的な(独裁的な)政治に対する貴族や議会の抵抗は、13世紀のマグナ・カルタまでさかのぼることもできる(P. 148の2を参照)。16世紀以降は宗教改革に伴って、国王を頂点とするイギリス国教会が形成され、国王と議会の対立が表面化することも多くなった。議会派にはピューリタンが多かったことも一因である。

しかし、ピューリタン革命・名誉革命を経て権利の章典が制定されると、議会制定法の優位と立憲王政が確立し、国王と議会の対立に終止符がうたれた。P. 205の年表などを参照してほしい。この後、「国王は君臨すれども統治せず」の伝統も確立する。

問5 正解① (第一次世界大戦後の出来事) 14

①P. 270の1を参照。世界恐慌に見舞われたアメリカ(フーヴァー大統領)は、ドイツの混乱を避けるためモラトリアム(賠償支払い猶予)を宣言したが、効果は薄かった。

②第3回選挙法改正は19世紀イギリスの自由主義的政策の1つ(P. 226の2参照)。

また、同ページの1も見て、他の自由主義改革も整理したい。

③国際的にスイスの独立が正式承認されたのはウェストファリア条約のとき。P. 200で、主権国家体制確立という大枠のほか、オランダの独立、カルヴァン派の承認、フランスのアルザス獲得など、いくつかの条項は整理しよう。

④P. 227の4を参照。ブーランジェ事件とドレフュス事件は、フランス第三共和政の不安定性を示す19世紀末の出来事。

問6 正解④ (牢獄や投獄の歴史) 15

a P. 205でチャールズ2世の王政復古期を確認。不当逮捕を禁ずる人身保護法が制定されている。また、公職を国教徒に限定する審査法も出されている。19世紀の自由主義改革の中で、審査法の廃止とカトリック教徒解放法制定があいつぎ、宗教的自由が高まる(P. 226の1参照)。

b P. 218の1を参照。国王夫妻が逃亡を図ったのは、プロイセンやオーストリアがフランス革命の動き(民衆の動き)を警戒していて、外国に逃げれば保護してもらえると考えたからである。外国から革命がつぶされるのを防ぐため、フランス

はオーストリアに宣戦し革命戦争が始まる。なお、革命・改革の動きが滞ると、バスティーウ牢獄襲撃やヴェルサイユ行進など、民衆のパワーが爆発する流れも知っておきたい。

C

孔子や孔子廟については P. 108 の人物コラムを参照。儒家思想と儒教・儒学の発展は中国史では必須の知識であるから、卷末の中国史のまとめで整理しておこう。

問 7 正解④ (儒教の歴史) 16

- ①儒学が官学化され、科挙で重視されるようになると、正統な古典解釈をまとめたものが必要となる。訓詁学の発達や孔穎達の『五經正義』が重要。P. 112, P. 118 を参照。
- ②民衆の教化をめざした洪武帝の六諭については、P. 166 を参照。
- ③朝鮮への中国の影響は大きい。P. 174 を見て、具体的にどのような影響を受けたか、王朝ごとに整理したい。新羅の律令制導入、高麗の科挙採用、朝鮮の朱子学官学化などが確認できる。
- ④P. 102 の年表などを参照。ベトナム北部は李朝(大越)の頃から中国支配を脱し、モンゴルに対抗した陳朝、チャンバーを攻撃し南部に領土を拡大した黎朝という順に発展していく。

問 8 正解① (戦争や外来文化の影響を受けた文化遺産) 17

- ①圓明園創建以降の経緯は P. 173 の右下を参照。雍正帝・乾隆帝・カスティリオーネらが関わって、豪華な離宮となつたが、アロー戦争で破壊された。あえてそのまま保存され、列強の理不尽な行為を伝えている(P. 249)。
- ②長城の歴史については P. 157 の④を参照。もちろん、北方民族の侵入に備えたものだが、威容を誇る現存長城のほとんどは明代のものであり、オイラトの侵入に対するもの。柔然は5世紀頃に活発に活動した民族で、P. 23 で確認できる。
- ③南北朝時代の三大石窟については位置も含めて要整理。P. 115 の下部を参照。北朝における国家仏教の発展についても、P. 115 の②でおさえておきたい。ジャイナ教もインド生まれた宗教であるが、インドの宗教別人口では 1 %未満(P. 96)。不殺生の戒律に厳格である(P. 97 の左下写真)。
- ④P. 99 の④でガンダーラの場所を確認。大乗仏教東伝の起点となつた。一方、ガンダーラ地方は P. 82 の地図④でわかるように、ギリシア系国家の支配地域となつた歴史を持つ。その結果、P. 99 の③のような、ヘレニズム彫刻の影響を受けたガンダーラ様式(仏像)が生まれた。同様式はクシャーナ朝時代のガンダーラで発展した。

問9 正解③ (人民公社の解体) 18

P. 294 の①を参照。文化大革命の混乱が続いた後、1976年に周恩来・毛沢東が死去し鄧小平が実権を握ると、中国が大きく変わり始める。アメリカ・日本との国交正常化や、経済特区設置・生産責任制導入などの改革・開放政策である。

aは中華人民共和国成立直後で、中ソ友好同盟相互援助条約がポイント。bは大躍進政策の失敗や文化大革命など社会主义体制の混乱と、中ソ論争の時代。cは改革・開放の時代。dはcの時代を踏まえて経済大国化していく時代である。

第3問 世界史上の戦争とその影響

A

帝政ローマの領域拡大については、P. 91 が分かりやすい。帝国国境はおおむねライン川とドナウ川であるが、全盛期にはドナウ以北に属州ダキア(現ルーマニア)を設置した。ローマ帝国の東西分裂後、バルカンはビザンツ帝国領となるが、やがてスラヴ系諸国家の台頭(P. 141 の地図B)や、オスマン勢力の浸透(P. 141 の地図C)が始まる。

問1 正解② (バルカン半島南部の歴史) 19

- a アテネがアケメネス朝と戦ったペルシア戦争の展開については P. 80 の1を参照。特にサラミスの海戦における無産市民の活躍は、民主政の完成に大きな影響を与えた(P. 81 の5)。
- b P. 82 を参照。マケドニアのフィリッポス2世はカイロネイアの戦いでアテネ・テーベをやぶり、ポリス社会の衰退とヘレニズム時代の到来を示した。P. 81の7のポリスの変質を見て理解したい。

問2 正解③ (征服地に対する政策の歴史) 20

- ①P. 27 のように、唐は突厥や朝鮮を征服して都護府を置いた。ただし、その統治形態は羈縻政策と呼ばれる間接統治であった(P. 117 の4)。
- ②共和政ローマ時代のポエニ戦争の経過は P. 88 の1を参照。この初期に属州シチリアが誕生する。一方、属州の拡大がローマ社会に与えた影響も大きく、属州公有地におけるラティフィンディアの発展が中小農民の没落につながった。これも同じ年表内に掲載されている。ポエニ戦争→社会の変質→内乱の1世紀→元首政という流れをおさえたい。
- ③ミスルはアラブ人の征服地におかれた軍営都市(P. 124)。ビザンツ帝国中期の軍事行政制度は軍管区制と呼ばれるもので、管区ごとに屯田兵が置かれた。P. 139 を参照。
- ④清の統治体制は P. 171 の3を参照。直轄地と理藩院を通して間接統治する藩部(モンゴル・チベット・ジュンガルなど)に分かれており、その外側に朝貢国があった。

問3 正解① (人々の移動・定住と国家の興亡) 21

- ①P. 136 の地図[A]のように東方からマジャール人が侵入し、スラヴ人に囲まれながらハンガリーを建国する (P. 141 の地図[B]・[C])。
- ②P. 38 にあるように、バトゥ率いるモンゴル軍は東欧各地に遠征し、ワールシュタットの戦いも起こった。ウィーン包囲で有名なのはオスマン帝国。特に全盛期(スレイマン1世時代)の第1回ウィーン包囲は、宗教改革時の国際関係にも影響を与えた (P. 195 を参照)。
- ③P. 134 の地図[A]のようにアッティラ率いるフン人はヨーロッパに侵入し、教皇レオ1世時代のローマにも迫った。ブルガリアはブルガール人の国家である (P. 140 の[1])。トルコ系ブルガール人のスラヴ化と建国について確認しよう。
- ④オスマン帝国は、その発展の過程で亡国の危機に見舞われた。P. 178 の[1]でティムールに敗北したアンカラの戦いをチェックしよう。ニコポリスの戦いではキリスト教側の連合軍に勝利している。

B

欧米列強と東アジアの戦争の例として、アヘン戦争やアロー戦争などがある。P. 250 を使って、両戦争に関係する事象を整理したい。南京条約・北京条約の比較検討、朝貢体制の崩壊と中国国内の改革運動など、重要事項が多い。日露戦争も欧米列強と東アジアの戦争だが、こちらはアジア各地の民族運動を促進した側面も持つ。P. 247 の地図Dやコラムを参照したい。

東アジアの国同士の戦争としては、日清戦争がある。これは、日本が朝鮮支配を狙う中で起こる戦争である。P. 252 の1を見て、日朝修好条規以降、韓国併合までの動きを確認しておこう。

中国国民党と中国共産党は合作と内戦を繰り返しながら、第二次世界大戦の終結をむかえた。その経過については P. 274 の1を参照。社会主義中国(中華人民共和国)が成立(P. 275 の毛沢東の写真)した直後、東西陣営がぶつかる朝鮮戦争が勃発した(P. 296 の2)。共産主義封じ込めを狙うアメリカは、対日講和を急ぎ、日本の国際社会への復帰は早まった(P. 285 のサンフランシスコ平和条約の写真参照)。

問4 正解① (19世紀にイギリスが清から割譲させた領土) 22

P. 249 の4および香港の用語解説を見て、各国の租借地・勢力圏を整理しよう。租借地の設定が日清戦争後になっていることに注目。

問5 正解② (国民政府の外交政策) 23

国民党および国民政府の動向は P. 251 の5と P. 274 の1に詳しい。辛亥革命を経て中華民国を成立させた孫文だが、その後、袁世凱や軍閥との戦いに力を割かねばならなかった。日本に亡命して中華革命党を結成したのも、そのような努力の1つである。

- ①二十一ヵ条要求は袁世凱政権に対するものであった(P. 274 の1)。
- ②中国が第一次世界大戦に参戦した理由の1つは、不平等条約の改正にあった(P. 261 の右下)。
- ③義和団事件後の北京議定書に調印したのは清朝政府。義和団事件で扶清滅洋がスローガンに掲げられていたことを想起(P. 250 の1)しよう。
- ④中ソ友好同盟相互援助条約は中華人民共和国(共産党政権)が締結した(P. 294 の1)。

問6 正解① (第二次世界大戦後の国際社会の枠組み) 24

- ①P. 287 の[3]を参照。西側陣営の集団安全保障体制の1つにANZUSがある。
- ②コミニテルンとは第3インターナショナルのこと。第一次世界大戦後のロシア革命の中で成立した(P. 265 の[2])。主導権はソヴィエト共産党が握り、他国の共産党が参加した。P. 278 の年表やP. 276 の[3]に見られるように、コミニテルンはファシズムに対抗する姿勢をとり、人民戦線を提唱した。
- ③四カ国条約はワシントン会議で締結された(P. 267 の[5]参照)。太平洋の現状維持など、日本の勢力拡大を牽制したもの。
- ④「パクス=ブリタニカ」とは「イギリスの平和」という意味。19世紀半ばの世界状況を示す言葉で、イギリスの圧倒的な力を背景に世界経済がまわっていたことを意味する。同様に元首政時代の地中海世界を「パクス=ロマーナ」と呼び(P. 90の[1])、第二次世界大戦後の世界を「パクス=アメリカーナ」と呼ぶが(P. 292 の[1])、「霸権を握る国が存在する=世界が平和で人々が幸せ」ではないので注意しよう。

C

問 7 正解① (第一次世界大戦中の秘密外交) 25

P. 272 の 2 を参照。第一次世界大戦勃発後、イギリスは戦況を自国の優位とするため相互に矛盾する複数の協定等を結び、後のパレスチナ問題の発端をつくりだした。フサイン=マクマホン協定ではアラブ人の独立を約束して、対オスマン帝国戦の優位を狙う一方で、サイクス=ピコ協定では、オスマン帝国領の列強による分割も企てた。さらに、ユダヤ系財閥の協力を得るため、同地域にユダヤ人国家建設まで約束して、問題を大きくした。

大戦 4 年目の 1917 年、レーニンが「平和に関する布告」を出して終戦を呼びかけた。その直後、アメリカの威尔ソン大統領は戦争終結の主導権を握るため十四カ条を発表する。P. 266 で十四カ条の中身を確認してほしい。秘密外交の廃止のほか、国際平和機構の設立、民族自決の原則など理想主義的な項目が並ぶが、威尔ソンの理想は、対独復讐を狙うクレマンソーやアメリカ議会の態度によって崩れ去ってしまう。

平和十原則は第二次世界大戦後の東西冷戦下で、第三世界の台頭を象徴する。P. 289 の 2 を参照し、ネルーと周恩来による平和五原則と、アジア=アフリカ会議(バンドン会議)の平和十原則を見て、反帝国主義・反植民地主義がうたわれていることを確認したい。

問 8 正解③ (近現代の科学) 26

常識も問われる問題。②④については P. 241 を参照。ダイムラーとカール=ベンツがガソリン機関と自動車開発の基礎をつくった。ヘルムホルツはエネルギー保存の法則を発見。ファラデーが発見したのは電気分解の法則。ダイナマイトを発明したのはノーベルで、その巨額の遺産がノーベル賞の基金となった。

①③については P. 317 の 4 や人物コラム参照。ライト兄弟による航空機初飛行、AINSHUTAIN の相対性理論、フォードによる自動車大量生産はすべて 20 世紀初頭の出来事であり、しかも 100 年後の現在、我々の生活に直結している。民間航空輸送の発達、宇宙物理学の飛躍的な発展、極限まで達したモータリゼーションなどを想起しよう。コラムを読むと、AINSHUTAIN がドイツ生まれでありながら、アメリカで原爆開発に関わったこともわかる。フォードの大量生産はベルトコンベヤ方式に支えられたもので、同型の自動車が町中にあふれた。P. 270 の写真を見て

ほしい。

問9 正解④ (空爆が行われた戦争) 27

- a P. 293 の4でユーゴスラヴィア紛争を整理しよう。この地域は、もともとキリスト教国家の支配が長い地域と、オスマン帝国支配下でムスリムの拡大した地域に分かれており、多数の民族・宗派が入り乱れている。第二次世界大戦後はティトー(人物コラムも参照)の指導力のもとで統一されていたが、社会主义体制の崩壊とともに、分裂と紛争を繰り返すようになった。もともと政治的権力を握っていたセルビア人と他民族の対立、および、ムスリム人とキリスト教徒の対立などが主要原因である。
- b 台頭するファシズム勢力とこれに対抗する人民戦線の戦いの典型が、スペイン内戦である。P. 279 の3で図式を見て、イギリス・フランスの不干渉政策がファシズム側の勝利の一因と考えられること、この戦争の結果が、ヒトラーの暴走と第二次世界大戦の勃発につながることを確認したい。なお、スペイン内戦で廃墟となった町ゲルニカを題材にしたピカソの大作は、ファシズムに対する批判のまなざしを感じさせる。コラムを読むと、同様に反ファシズム・反ナチズムの態度をとった文芸家が多いことがわかる。
- c パレスチナ問題とそれに伴う中東戦争についてはP. 302を参照。中東戦争ではイスラエル側が優勢で、特に第3次中東戦争では、ゴラン高原・ヨルダン川西岸地区・シナイ半島を占領した(地図C)。このようにして、居住地を追われたアラブ人がパレスチナ人(パレスチナ難民)となる。

第4問 世界史上の宗教と政治との関係

A

イスラームの統治については、P. 126 の[2]がわかりやすい。アッバース朝時代まではカリフがイスラーム共同体の全権を握る仕組みだが、以降は、宗教的権威を持つカリフと政治的・軍事的権限を持つアミール・スルタンが共存する形となる。さらにカリフの権威そのものも不安定で、P. 126 の地図[A]のように3カリフが鼎立したり、地図[D]のようにカリフ位を継承していたアッバース朝が滅亡するなど、イスラーム共同体の一体性は失われていった。

スンナ派とシア派の対立については、P. 122 の系図と P. 125 のチェックを参照。そもそもカリフとはイスラーム共同体(ウンマ)をまとめる「神の使徒の後継者・代理人」であり、第4代アリーまでは正統カリフと称される。この後、アリーの子孫のみを指導者と認めるシア派が登場し、預言者ムハンマドの言行や慣行に従おうとするスンナ派との対立を深めていく。

ムスリムは所属する国をこえて、イスラーム法の遵守を求められる。P. 124 を見て、シャリーアが民法や刑法を含む法体系であり、その根拠がコーランの記述やムハンマドの言行にあることを確認しよう。しかし、欧米諸国とイスラーム世界が接触する17世紀以降、イスラーム諸国の統治体制は、近代的法治国家体制とイスラーム独特の体制の間で揺れ動くようになる。オスマン帝国のタンジマートやミドハト憲法の制定を想起したらよい(P. 242 の[2]参照)。

問1 正解④ (イスラーム世界の君主) 28

- ①P. 122 の[2]を参照。正統カリフ時代はウマイヤ朝の前で、共同体指導者が信徒の同意で選ばれていた。
- ②エジプトの君主の総称はファラオで、神の化身として統治した。古代エジプトは主神ラーを含む多神教であり、各国王によって、強く結びついている「神」や神官団が異なった。これは各ファラオの名前に反映される。例えば P. 72 のコラムのアメンホテプ4世の場合、もともとの名前はアメン神信仰との結合を示しているが、イクナートンに改名してからはアトン神との関係がうかがわれる。一方、シャーはイランの王号であり、例えば、P. 176 の[1]にイスマーイール1世が「シャーを称す」とある。
- ③P. 126 の[2]を参照。スルタンの称号はセルジューク朝で既に用いられている。

④P. 126 の地図[A]の通り、本来 1 人であるはずのカリフが鼎立した。

問 2 正解① (新宗教や新宗派の歴史) 29

- ①P. 72 の人物コラム参照。テーベの神官団と対立したアメンホテプ 4 世は、守護神アモン(アメン)を捨ててアトン一神教を創始し、神官団の勢力と一線を画した。王の死後は神官団が再び台頭した。後継ファラオであるツタンカーメンの名前に、「アメン」が入っていることに気づくだろうか？
- ②P. 243 にイランの改革・革命運動が整理されている。すべてカージャール朝の專制支配や、浸透してくるイギリス勢力に対するもの。イル=ハン国はモンゴル系の国家(P. 38 を参照)。
- ③P. 194 を参照。宗教改革と言えばルター(ドイツ)・カルヴァン・ツヴィングリ(イス)が有名だが、年表にあるように、ウィクリフやフスの教会改革運動からのつながりがあることを確認したい。
- ④巻末に中国の民衆反乱一覧がある。清代にも白蓮教徒の乱が発生しているので確認しよう。

問 3 正解② (イスラーム法の担い手やイスラーム世界における政治運動) 30

- ①ウンマは信徒全体の共同体であり、その指導者である知識人層はウラマーと呼ばれる。P. 124 を参照。日常生活の指導だけでなく、欧米列強に対する民族運動の先頭に立つこともあった。例えば P. 243 にあるタバコ=ボイコット運動などが典型的である。
- ②P. 242 の[1]で、ワッハーブ運動にサウード家の支持があることを確認。その後、イギリスの支援を受けてサウジアラビア王国の成立に至る過程は P. 272 の[3]を参照。アラブ人は部族社会の伝統が根強いので、このような○○家という単位で事象を見ることが重要である。
- ③タリバン(ターリバーン、タリバーン)などイスラーム原理主義については P. 300 の用語解説を参照。欧米諸国とイスラーム世界の接触がはじまって以降、西欧化・近代化・経済発展という要素と伝統を守ろうとする復古主義的思想が対立してきた。現代にイスラームの原点を復興させようとするイスラーム原理主義の多くは、稳健で現実的な改革派であるが、紛争を引き起こすタリバンのような過激派も存在する。タリバンはアフガニスタンを実効支配していたことがあり、バーミヤンの仏像を破壊して非難を浴びた。チュニジアはアラブ諸国の民主化運動

「アラブの春」の起点となった国。P. 314 の[2]を参照。

④戦後の西アジアについては P. 300 の[1]を見てほしい。1979 年には重要事項が重なる。アラブの盟主だったはずのエジプトはイスラエルと和平を結ぶ一方、イラクにはサダム=フセインが登場して度重なる戦争を引き起こすこととなる。イランではパフレヴィー朝に対する革命で、ホメイニが実権を握る。

B

コルテス・ピサロがほんのわずかな軍勢でアメリカ大陸を征服できた背景には、宗教・文化の違いがある。P. 185 の用語解説を参照。以降、アメリカ大陸とヨーロッパの間で人やモノの相互移動が起こり、社会全体が変容していく。P. 186 の[1]を見て、相互にもたらされたモノを一通り眺めたうえで、現代人の食卓を賑やかにしている代表的な農作物が全世界に広まるようすを確認したい。

一方、キリスト教の布教によって、アメリカ大陸はラテンアメリカを中心としてカトリック世界に取り込まれていくが、布教に際して宣教師たちが見たものは、先住民の悲惨な状況であった。鉱山労働や免疫を持たない病疫によってインディオ人口が激減する中、ラス=カサスのようにスペインの統治の不当性を訴える聖職者もいた(P. 186 の[2]や人物コラム)。

問4 正解③ (ヨーロッパ諸国の海外植民地) [31]

- a P. 210・211 の年表や地図にあるように、ケベックはフランス領であったが、18世紀半ばには周辺を含めてイギリス領になる。
- b P. 258 の[2]を参照。オーストラリア・ニュージーランドはイギリス植民地となるが、その後 20 世紀初頭には自治植民地となる(P. 225 の[2])。イギリス系移民の多い植民地に関しては自治領として本國の負担を減じることができた。

問5 正解④ (キリスト教の歴史) [32]

①④ P. 90 の[1]を参照。ネロ帝やディオクレティアヌス帝の迫害を経て、コンスタンティヌス帝がキリスト教を公認し、帝国支配の支柱として利用した。この間キリスト教徒は隠れて信仰を維持し、多くの殉教者も出た。P. 95 で、地下墓室カタコンベ(迫害時の礼拝にも用いられた)や、ペテロ・パウロなどの殉教者を確認しておきたい。

② P. 77 の[3]にあるように、ゾロアスター教は極めて古い宗教で、「最後の審判」の思想などでキリスト教成立に影響を与えている。一方、マニ教はゾロアスター教・キリスト教・仏教などが融合したものであり、この文は誤りとなる。

③ P. 95 を参照。『旧約聖書』はヘブライ語、『新約聖書』はギリシア語で書かれた。一方、『コーラン』はアラビア語で記された。P. 122 の[3]を参照。

問6 正解③ (アメリカ大陸の文明) [33]

P. 184・185 にアメリカ大陸の諸文明の地図、特色の一覧表が示されている。基本事項を整理しよう。マヤ文明の二十進法は盲点だったかもしれないが、P. 185 の古代文明の表では、太字で記載している。

問 7 正解② (仏教の歴史) 34

- ①東南アジア諸国家の宗教分類は必須。P. 102 の①に色分けしてあるので見ておこう。タイ・ビルマは一貫して上座仏教である。
- ②渡印僧についてはP. 119のコラムで整理している。まずは、その僧侶の時代の中中国・インドの王朝をまとめ、著作を確認しよう。陸路で渡印した玄奘と海路で旅行した義淨の違いにも注意したい。
- ③義淨の旅行路はP. 27で確認できる。シュリーヴィジャヤを訪れた義淨は仏教の隆盛を『南海寄帰内法伝』に記した(P. 102の下部年表)。
- ④P. 175を参照。高麗版大藏經はモンゴル軍撃退を祈願したもの。朝鮮半島の仏教文化としては、同ページの新羅の佛国寺も有名である。

問 8 正解① (清末の民衆運動) 35

まずはP. 249の③を見てほしい。アロー戦争の結果、天津条約・北京条約(P. 250の下部参照)を締結し、キリスト教布教の公認など、有利な条件を認められた列強は、太平天国の乱で「滅満興漢」を唱える反乱軍と戦う清朝側についた。条約が無効となるのを恐れた側面もあるだろう。このあたりから、中国では仇教運動が盛んになる。P. 248の年表でも確認したい。

P. 249の③にあるように、上帝会(挙上帝会)を組織したのは洪秀全である。彼は太平天国の指導者となった。上帝会にはキリスト教の影響がうかがえる。

仇教運動の流れの中で、「扶清滅洋」を唱え、山東省で組織された集団が義和団である(P. 250の①)。この時は、義和団と清朝が結び、列強8カ国連合軍と戦うことになったが敗北した。

新文化運動(文学革命)についてはP. 274の②を参照。第一次世界大戦の戦勝国であった中国であったが、パリ講和会議でも要求は通らず、人々の不満が高まっていた。そこに、ロシア革命の衝撃が加わり、中国でも社会改革を多方面で進める動きが盛り上がる。陳独秀・胡適・魯迅らは文学そのもののあり方を変えて口語文学を提倡し、民衆に直接語りかけて社会改革をもめざしたのである。このような新思想の勃興が、五・四運動の背景となった。

問 9 正解③ (アジアのナショナリズム) 36

東南アジア諸国の民族運動と独立過程は、それぞれの国の体制や社会のあり方に大きく影響しているので、P. 247, 273, 298 の年表を参考に各国史として整理してみよう。

- a P. 273 の[6]で各国の民族運動を整理。ビルマのタキン党、インドシナ共産党(ホー=チ=ミン指導)、インドネシア国民党(スカルノ指導)などが重要である。
- b P. 273 の[5]でインドの民族運動を確認。ガンディーの非暴力抵抗運動はコラムもあるので読んでみよう。インド国民会議派の中には急進派もいたが、ネルーはガンディーとともに反英運動の先頭に立った。国民会議派のカルカッタ大会における4綱領や、同ラホール大会のプールナ=スワラージは最低限おさえておきたい。なお、このような反英運動を分断しようとしたイギリスの動きも重要である。ベンガル分割令はその典型で、ヒンドゥー勢力とイスラーム勢力の対立をあおつて、反英運動の矛先を変えようとした。ジンナーが全インド=ムスリム連盟をつくって、イスラーム地域の分離独立をめざしたことは、このような流れの中で理解したい。